

# 「道生」

会長 山本行恭



振り返れば、平成元年より本年

三月に至るまでの間、我等青年会にとつても、また神社界にとつても誠に大きな行事が集中し、単に日本国のみの問題だけでなく、世界にまでその波紋は普及した。加えて不当な輩集団による無差別テロなどにより、身近を大きく揺るがされた既成事実は各地の神社に大きな打撃を与え、目下再建・再興の途中であるところもあるうかと思う。特に左様な被害を被られた神社に対し、深甚なる同情の意を表する次第でございます。

さて、国家的な諸行事は日本国建国の歴史と、日継ぎ息継ぐ皇位

の継承と共に新たな生命の息吹をつぶさに受け継がれた儀式は、現在の世代に生きる我々青年に対し、その重大なる意義を容易に認識させるに至った。言わば生命の甦りと共に、日本の歴史を塗り換えることになったのであります。

又、戦後間もない動乱期に神社神道の復興を叫びながら、各地で産声を上げ出した神道青年全国協議会が発足され、これを契機として全国の神道青年会が文字通り「青雲の志」をもって誕生したのであります。本来であれば、昨年（平成元年）が創立四十周年に当たったのでありますが、重なる事情を鑑み、本年（平成二年）に延期されたものです。

三重県神道青年会にあつても、この時に当たり盛大に四十周年記念大会を開催することが出来ました。ひとえに先輩諸氏が長年にわ

たり培つて下さった賜物であり、懇切なる御指導と御鞭撻を頂いたが故に開催出来たものと感謝致しております。重ねてお礼を申し上げますと共に、全力投球して下さいました役員会員に対し改めてお礼を申し上げる次第でございます。

さて、これらの事業は全て道義的且つ必然的に与えられたものであり、敷かれた大要の上を只無心にひた走ったものにほかなりません。しかし、今度はいよいよ我々自身の手で綿密な企画と活動力をフルに駆使して、凡ゆる事業に着手しなければならぬ時期が来たように思う次第でございます。次年度からの青年会役員及び会員に大いなる期待を寄せながら、与えられた使命を充分に発揮し心機一転を計って頂きたいものと存じます。

平成五年に御齋行される「第六十一回式年御遷宮」を始めとして、徐々に切迫してくる一連の行事に真つ向から取り組むべく、啓蒙推進活動を活発に展開するとともに、他方面でも地域社会への奉仕の輪を拡げ、物心両面をより充実できる方向へと展開して頂きたいものと願っております。

「道は一を生ずる」

道とは、常識であり行為であると共に方法であります。万物の生成は、天地大自然の律儀な法則と多大な恩恵によって産み出されるものであり、人間本来の智慧を加えて如何に確実に成すべきかが、今後の青年会に与えられた大きな使命だと考えます。「道生」一生活二一生活三三生活万物二道が根本となる一気を生じ、その一気は分かれて二気、即ち陰陽の気を生じ、その陰陽二気が感応して三つめの気を生ずる。その三つめの気が万物を生ずるのであります。

斬新な工夫と智慧・知識を大いに鼓舞させて凡ゆる事業に邁進して頂きたく、衷心よりお願い申し上げます。二年間お世話になりましたお礼と今後の御活躍を切にお祈り申し上げます。有り難うございました。



## 二年間を顧みて 副会長語る



副会長 宮川清彦  
(渉外委員会 担当)

「光陰矢の如し」というが、真にその通りであった。平成の御代になり最初の神青スタッフとして神宮より佐師、土井、岡本会員と共に参加させていただいた。会長始め他の役員の方々は恐縮ながらほとんど初対面であり、かなり戸惑いを憶えたが、同じ世代の仲間という連帯感と共に、実りある活動をとの思い、そして何よりもいろいろな人と出合えるという期待感から一生懸命種々の行事に参加計画させていただいた。

ただ自分の力不足から会員諸氏に幾度となくご迷惑をおかけしたことがあり、紙面を通してお詫び申し上げます。

二年間の活動の中で特に印象に残ったのは「宇治橋渡始式」への助成と「三重県神道青年会創立四

十周年記念行事」である。内宮入口に架けられた宇治橋は二十一年一度新しく造り替えられる。昭和四十四年の渡始式にも時の会員が奉仕させていただいたが、今回も神青当局よりお許しをいただき多数の会員がその機会を得た。平成元年十一月三日、檜の香もすがしい秋晴れの内宮において白衣白袴に身を改めた山本会長以下神青会員は県別に整列した参列者の先頭に立ち、先達の印たる県名標示板を高く掲げて宇治橋を渡ったのである。神宮と神青との調整を図らせていただいた自分としては共に渡ることは出来なかったが深い安堵感と充実感を憶え、終了後喜びを分かち合った。

そして年が開け平成二年六月三日、四十周年記念行事が賑々しく津のセンターパレスにおいて執り行われた。これは岩田実行委員長の熱意と努力により成し遂げられた、任期中最大の行事であった。祭典より始まり、式典・講演・祝

賀会という構成で、講師は小堀桂一郎先生、来賓は神宮大宮司、神社庁長、県総代会々長を始め各界第一人者をお迎えして開催された。三重県神道青年会の威信のかかった行事でもあったが、細長い三重県において各地に散らばる会員に協力を求めつつ実行に移すのは並大抵の苦勞ではなかったと思う。委員長に深く敬意を表したい。

わが神道青年会にありては、創立四十周年という節目の時を迎え、盛大な記念大会を執行し、伝統を受け継ぎつつ新たな旅立ちの時期にあたった。この内外激動の時にあたり、会の中核の一人として、又教化研修委員会の担当副会長として、今後に思いをはせつつ過ごしてきた。会は山本会長の指導力宜しく円滑に運営なされてきた。委員会の方は、実行力旺盛な増田委員長、種村副委員長などの働きにより、神道青年会最大の年中事業ともいうべき、お宮の子供会始め種々の



副会長 辰守弘  
(教化研修委員会 担当)

平成元年四月から一期二年の間、副会長として努めさせていただいた。その間、世の移り変わりは激しく、東西二つの陣営の対立の象徴ともいふべきベルリンの壁も崩

壊し、米ソ二大国の対局の時代から、多極分散、新秩序構築の時代へ。その間隙をぬうように、イラクの独裁者サダムフセインによってクウェート侵攻がなされ、終に世界注視の中、湾岸戦争となる。然し、それによって世界の新秩序の構築とはならず、それを求めて世界は今大きく動きだしている。国内にありては、昭和天皇の崩御にともなうご諒闇の悲しき時期。そしてそれに続く、今上陛下御一代一度の晴の盛儀たる、御大礼がなされ、新時代の幕開けの時期でもあった。

事業をとり行うことができた。なかでも第一四回は、台風の影響で行事が中止となり残念だった反面、第一五回のお宮の子供会では、神社新報の記者もこの行事に寝食を共に参加し、親の協力なしでこれだけのことをする神青会活動に驚嘆していたことが印象深い。また新報で全国に大きく報道され、三重神青ここにありとの感を強くした。

形をもって表明したことの意義もこれ又大きいといわねばならない。ただひるがえって考える時、神青結成から四十年を経過した今こそ、結成当時と違う状況を考慮に入れ、世界のなかの日本、日本の中の三重神青として、新たなビジョンをかかげて歩み出さなければならぬ時期と感じつつ、回想の記事とする。



副会長 山中 理 (総務広報委員会担当)

又、五年に一度めぐりくる東海五県神道青年連絡協議会及び教化研修会の当番県として、教化研修委員会と樋口事務局長主導のもと、山本会長の椿大神社椿会館を会場に、形を重視しつつも形にとらわれず、お互いの融和をモットーに意義ある研修会を開催することができた。殊に、親睦行事を野球からボーリング大会に変更したのは、大いなる決断でもあったが、これを三重神青が口火を切ったことの意味は大きい。それから、山口県神青との合同複研修会も印象深い。

平成元年度・二年度、一期二年間、山本会長のもと副会長を勤めさせていただき、奥出委員長率いる総務広報委員会を担当させていただきました。この間、役員はじめ会員諸兄には、暖かい友情でご協力ご支援を賜り無事に勤めさせていただきましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

さて、今期は激動の昭和から平成の御代への移り変わりという目まぐるしいほどの時の流れの中、宇治橋渡始式、当会四十周年記念大会、五県連絡協議会及び教化研修会、即位礼・大嘗祭の奉祝

事業と、大きな事業がたくさんあり、非常に忙しい時でもありました。しかし、これら沢山の事業を無事成功裡に収めさせていただけたのは、三重県神道青年会の四十年に向けた組織改革と、念入りな下準備を重ねてきた事により、ここ数年に相当なパワーアップが成された事が大きな要因となりました。我々は、四十年を積み重ねてこられた歴史の単なる区切りだけでは無くして、未来へ向けての活動指針を確立し、更なる飛躍を期する重要な節目の時としてとらえ、会員一丸となって進んで参りました。そして、それらの事業をすべて終えた今、充実感と確実な手応えを感じております。

南北に長いという三重県の地理的影響もあって、それぞれの地域に分布する会員が事業に無理なく出席(参加)して頂くことは、なかなか難しく、かねてよりの懸案でありました。しかし、四十年事業を契機として悪条件を物ともしないパワーが付いたように思われます。事業を起こす楽しさと、やり遂げた充実感を忘れること無く神青の炎を燃やし続け、「惟神の道」に邁進する事が、斯界の尖

兵としての神道青年の勤めであり四十年の歴史を築いて来られた先輩諸氏への恩返しでもあります。今後神社界は、益々多忙化してまいります。会員諸兄のご健勝と更なる発展を祈念し、お礼の言葉と致します。

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長, 副会長, 理事) and Name (e.g., 山本行恭, 宮川清彦, 山中守弘).

平成二年度 事業報告

三重県神道青年会 創立40周年記念大会

平成二年六月三日 時恰も御大典の佳年に我ら神道青年会は創立四十周年の記念大会を津センターパレスにて多数の御来賓はじめ、会員約百五十余名の参会のもと盛大に開催した。

午後一時三十分、奥出理事の斎主による奉告祭が厳肅に斎行され、四十周年の奉祝と共に、会の発展と斯道の興隆を祈念し、幕が開けられた。

奉告祭の後、午後二時五分、記念式典が厳かに執行され、四十年間の歩みの中で、多大なる御協力と御尽力を賜った関係神社宮司様を始め、



四十周年記念奉告祭

新入会員歓迎 ボーリング大会



女子の部優勝杯の贈呈

平成二年五月十二日、我が神青会へ、今年新たに入会した新会員を歓迎する恒例の「新入会員歓迎ボーリング大会」が、津グラウンドボールに於て六名の新会員を迎え開催された。

当日、山本会長以下三十九名が参加し、熱戦が繰り広げられた。久々にボーリングをする会員も多く本領も発揮できずスコアも区別なく、大会の後、神社庁にて表彰式が行われ、団体戦では北部地区が優勝、個人戦では松本光久会員(二見興玉神社)、鈴木裕美子さん(椿大神社)が夫々優勝し、表彰を受けた。

続いて、懇親会がもたれ和やかな内に新会員を中心に親睦を深め合った。(池田 記)

会務日誌

- ◎平成二年 四月二日 平成元年度定例総会 会員二十一名出席 於・三重県神社庁 二十三日 神青協創立40周年記念大会 会長以下五名出席 於・明治記念館 二十四日 神青協第42回定例総会 会員二名出席 於・神社本庁 二十五日 第一回役員会 五月十二日 第二回役員会 新入会員歓迎会 会員他三十九名参加 於・津グラウンドボウル 三重県神社庁 六月三日 創立40周年記念式典 来賓・会員百四十名出席 於・津センターパレス 七日 第三回役員会 七月一日 平成二年度会員名簿発行 十八日 第四回役員会 於・員弁郡 賀毛神社

# 東海五県 神青協当番

## 第十五回 お宮の子供会

九月三日・四日、鈴鹿市の椿会館において、『東海五県神道青年連絡協議会及び教化研修会』が、本県の当番により八十余名の参加を得て開催された。教化研修会には、修養団伊勢青少年研修センター所長中山靖雄先生を迎え「心豊かな人生」という演題で講演があり大変心打たれた。第二日目には、本年は天候に心配なくプレーをという事で初めての試みのボーリング大会を行なったが、野球とは一味違った親睦を深めることができ大変好評であった。(中野記)



教化研修会 (於・椿大神社)

第十五回お宮の子供会が、八月五日、六日、七日の日程で、員弁郡北勢町の賀毛神社(民上宮司)に於いて開催された。前回十四回が天候不良で中止になったためスケジュールも入念にくまれ万全を期し、募集が始まると定員の五十名を大幅にこえ七十九名と最高の参加人員となり、奉仕者、員弁支部神職、賀毛神社婦人会と総員百二十名と大所帯となった。初日は、受付終了後に班編成し社務所、宮司旧宅、地区公民館、氏子宅と別れ舎営となった。当日桑名は春日神社の石取り祭を見学しおまつり気分を満喫し日程を終える。二日目は、藤原ヶ岳の中腹にある聖壺寺に登り、鱒釣り大会をし滝壺のキャンプ場において、竹飯、鱒のホイル蒸しに挑戦する、日ごろから料理などしたことのないとみえて、かなり苦労をしている様子であったが、焦げた竹飯をおいしそうに食べなかなか評判もよかった。午後からは、大安町、菰野町のB&G海洋センターでヨット、カヌー、

カッターなど、学年別に別れ体験学習をする。朝からのハードスケジュールに少々ばてぎみかと思われたが神社に戻り、パーベキューになるとまた元気になり、キャンプファイヤーをし日程を終える。三日目は、記念の手形色紙をつくり各自親睦を深めまたの再会を約束し帰路につき全日程を終了した。(種村記)

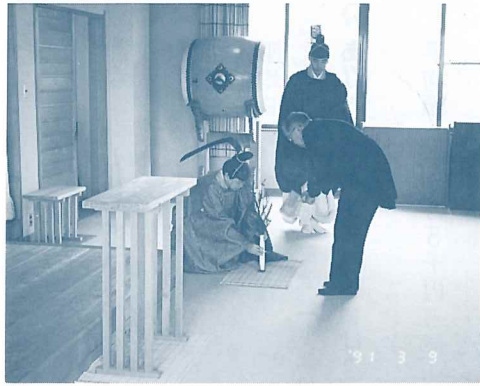
B&Gセンターでのヨット体験→



鱒釣りの屋食のおかず

- 二十日 「神青通信」発行
- 二十五日〜二十六日 神宮神道青年会との合同研修会
- 会長以下二十三名参加
- 於・二見 海洋楼
- 八月五〜七日 第十五回お宮の子供会
- 於・員弁郡 賀毛神社
- 二十七日 第五回役員会
- 九月三〜四日 東海五県神青協教化研修会
- 会長以下二十四名参加
- 於・椿大神社
- 十八日 第六回役員会
- 二十六〜二十七日 紀元二六五〇年奉祝式典
- 会長以下三名奉仕出席
- 於・檀原神宮
- 十月十五日 伊勢大祭奉祝初穂曳
- 会長以下四名参加
- 於・伊勢市内
- 十七日 第七回役員会
- 十一月十日 40周年記念誌発行
- 十三日 第八回役員会
- 二十七日 御大典奉祝三重県大会
- 会員二十名奉仕

## 御大典奉祝 記念植樹



神社庁神殿での植樹の儀

三重県神社庁より、御大典奉祝記念植樹の企画運営を依頼され、平成三年三月九日神社庁神殿例祭に併せ、その植樹祭を斎行した。例年この神殿例祭には、神社庁祭式講師助役が奉仕しているが、本年は植樹祭の為、山本会長、瀬尾会員もその祭員として奉仕に加わった。会員達が前日に神宮佐八苗畑よりいただいたきた神宮杉苗約八百二十本は、祭典終了後、記念プレートと共に、神社庁各支部長を通じて、県下全神社に領けられた。(伊藤記)

## 氏子青年会との 合同研修会



神青・氏青ひざを交えての座談会

三月十八日午後二時より、合同研修会が開催された。神社庁神殿拝礼後、今上陛下の御幼少の頃より、現在までのビデオが上映され、続いて出席者の自己紹介の後、座談会が行なわれた。座談会では、神青会員より奉職神社の氏青の状況が説明され、氏青からは現在の活動状況などが話された。その中で主な話題となったのが伊勢を中心とした南勢地区に、氏青を作っていくことで、神青の協力が求められた。その後、懇親会が行なわれ、なごやかなうちに閉会された。(波多瀬記)

## 楔研修会



楔研修会が椿大神社に於て三月二十二日・三日開催され、参加者十五名全員元気に滝にうたれ心身を浄めた。今回は昭和六十三年に神社本庁錬成行事一部変更に伴い伝達研修として行われた。又石上参事先輩の講演があり主に教化事業に就いて近年変化する社会情勢の中に新たな問題点も多く、その対策に遅れ情報化時代に対応する教化体勢、各種規定の見直しを計り事業の整備充実と神職自らの教化に対する姿勢を神社界一致協力し推進する事を誓い閉講した。又川島祭式講師の指導で宮司舞研修会も開催し短時間で全員が修得し有意義な研修会を終えた。(増田記)

楔研修会が椿大神社に於て三月二十二日・三日開催され、参加者十五名全員元気に滝にうたれ心身を浄めた。今回は昭和六十三年に神社本庁錬成行事一部変更に伴い伝達研修として行われた。又石上参事先輩の講演があり主に教化事業に就いて近年変化する社会情勢の中に新たな問題点も多く、その対策に遅れ情報化時代に対応する教化体勢、各種規定の見直しを計り事業の整備充実と神職自らの教化に対する姿勢を神社界一致協力し推進する事を誓い閉講した。又川島祭式講師の指導で宮司舞研修会も開催し短時間で全員が修得し有意義な研修会を終えた。(増田記)

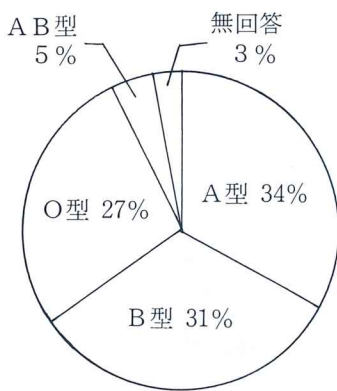
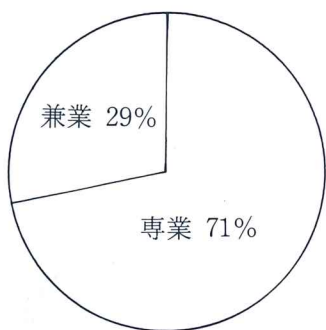
- 於・伊勢市観光文化会館
- 十二月四日 大麻頒布促進運動
- 会長以下十八名奉仕
- 於・西桑名ネオポリス
- ◎平成三年
- 一月二十二日 第九回役員会
- 於・猿田彦神社
- 二月十八日 第十回役員会
- 三月五〜六日 神青協中央研修会
- 会員七名参加
- 於・高松市
- 十六日 三重県護国神社合祀祭奉仕
- 会員十名奉仕
- 於・三重県護国神社
- 十八日 第十一回役員会
- 氏子青年会との合同研修会
- 会長以下十三名出席
- 於・三重県神社庁
- 二十二日〜二十三日 楔研修会
- 於・椿大神社
- 会長以下十五名参加
- 二十七日 家族会
- 於・津平安閣
- 三十一日 家族会
- 於・津平安閣
- 三十一日 「神葉」十七号発行

特別企画

会員アンケート

Q あなたは①専業神職ですか？

②兼業神職ですか？



(参考) 日本人の血液型比率 (血液型人間学研究所調べ)

**B型**  
行動や表現力が抑制的  
白黒善悪ケジメをつける  
決断と実行力に富む  
型にはまらずマイペース  
客観性に富む  
凝り性

**A型**  
合理性に富む考え方  
正義感が強い  
批判分析に長じている  
人間関係の調整が巧み  
目的志向が強い

**O型**  
判断行動が現実的  
自己主張表現能力に富む  
個性的な物事を好む  
(血液型人間学研究所調べ)

**Q あなたの嫌いな女性タレント**

一位 松田聖子  
二位 山瀬まみ  
三位 野沢直子  
四位 土井たか子  
五位 井森美幸

(参考) 『10代スキライ白書』  
KKベストセラーズ

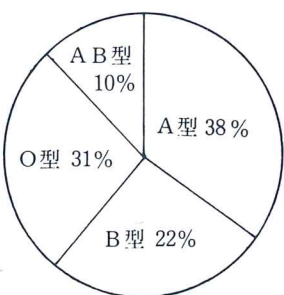
Q 休みは月何日ありますか？

平均日数 5、36日

Q あなたの1カ月の小遣いは？

平均額 約4万5千円

Q あなたの血液型は何ですか？



◎血液型主な気質特性

A型 人間関係の平和を望む  
理想が高く、完全主義

Q あなたの好きな女性タレント

一位 田中美佐子  
二位 鈴木保奈美  
三位 小泉今日子  
四位 沢口靖子  
五位 畠田理恵

(参考) 『10代スキライ白書』  
KKベストセラーズ

一位 鈴木保奈美  
二位 RIKAKO  
三位 小泉今日子  
四位 杉本 彩  
五位 宮沢りえ

その他少数意見  
立派な総代、支援、ワープロ、  
パソコン、釣り道具、運転手、  
神職身分二級、土地、名誉等

**Q よく聞く音楽はなんですか？**

ニューミュージック 24%

Q あなたの好きなアルコールは

ビール	32%
洋酒	19%
日本酒	16%
焼酎	8%

Q これまでに神道青年会行事に参加した事がありますか？

ある 89%  
ない 4%

Q 今後、神道青年会の行事に参加したいと思えますか？

はい 76%  
いいえ 16%

Q よく飲みに行く処は？

居酒屋	34%
スナック	21%
バー	6%
クラブ	3%
その他	16%

Q 神道青年会にどのような行事活動企画を望みますか？

- ・神職の交流旅行、趣味講習
- ・研修会(櫻、雅楽等)
- ・勉強会(講演会、国防研究)
- ・自衛隊体験入隊
- ・異業種との交流会
- ・ボランティア活動
- ・映画製作

Q もし生まれ変わったらどのような職業に就かれますか？

- ・ やっぱり神職 32%
- ・ その他
- ・ 教師、医者、政治家、画家、パイロット、弁護士、音楽家、サラリーマン、エンジニア、アメフトコーチ、船乗り、

Q 神道青年会に対するご意見をお聞かせ下さい。

- ・ より多くの会員の主体的参加を望みます
- ・ 神道に関する教化の場を作っ
- ・ て欲しい
- ・ 行儀が悪い
- ・ 青年らしい発想をして欲しい
- ・ 明るく協調性がある
- ・ 一般の人に神青の活動を理解していただけるようにしたい
- ・ 同じ神職の立場でありながらあまりにも他人事視している傾向が強い。青年とは青雲の志を持った者を指して言うにも関わらず、意志が見られないのは誠に残念。己を出して全てに鼓舞して下さい
- ・ 日本一の神青を目指して頑張
- ・ りましょう
- ・ 今一つ活動状況が伝わってこない気もする

もつと会員同志の親睦を深める場を設けて欲しい  
兼業神職がもつと参加できる日程などを考えて下さい  
他宗教の若手の活動(難民救済、ボランティア)をよく研究し、神道人として何を成すべきか、何か出来ないかという意見を持つこと(活動を同様に成せ!とはいわないが、世間の風潮に対する意見をしっかりと持っておくということ)  
敷居が高い  
活発さ、若い情熱に欠ける  
もつと一般会員の参加を  
30代後半の方々が中心で動いているようなところがあり、新会員や20代の会員も気楽に出られ、自分の意見が言えるような雰囲気を見たいですね。

今回、初めての試みとして、会員の意識調査をすべく会員アンケートを実施致しました。全会員の四十五%にあたる六十七名の方々より回答を戴きました。皆様方から頂戴致しました貴重なご意見・データを今後の会活動の為に活用させていただきます。

米  
国  
神  
社  
奮  
闘  
記

椿大神社権祢宜 岩崎 均

先に単身渡米し、事務所開設・

米国神社建立の準備にあたっては山本行恭祢宜を補佐するという任務を滞り、初めて米国の土を踏んだのが、昭和六十一年の秋。早いもので、五年近くも前のことである。五年間の米国駐在というところ

## 葉

## 榊

平成3年3月31日

聞こえは良いが、移民局との査証上のトラブルで、一時帰国後、再入国出来なかつたりして、実際に駐在していたのは三年程であろうか。行恭祢宜の補佐とは言いながら、事務所開設、神社建立のどちらも、その直前、既に準備の大半が済んでしまつてからの渡米であつたため、米国神社建立の任を終えて行恭祢宜が帰国してしまつと、何もわからないままひとり取り残された様な状態となつた。

加州から宗教法人の認可は受けているものの、現地にまつまつた崇敬団体があるでもなく、連日参拝者が訪ずれるでもなく何をしてもいいやらわからず、模索の日々が始まつた。以下、試行錯誤の体験記。椿大神社の一歩のセールス・ポ

イントは周知の如く楔である。神

道をいくら言葉で説明しても、言語、風俗、習慣等の違いから仲々受け入れてもらえない。それで、先ず滝に打たせる、滝に打たれれば、誰もが感銘し、自ずと神道に興味を持つてくれる。現に海外進出の機縁ともなつた多くの外国人支援者は、皆が本宮を訪れた際に、金龍明神の滝で楔をして、オー・ワシダフル！と言つた人たちである。行恭祢宜も一度、米国で楔ツ

アを組んで山中で合宿したところであるが、大好評であつたと聞く。ところが、である。私が渡米した年から今日に至るまで、加州は五年続いての雨不足。近辺、隈無く探し歩いたが、楔の出来そうな滝が全然見つからないのである。これだけはどうにもならず、代わりに楔の映画を上映して、教会等を回つた。映画上映だけでは物足りないし、又貸し出しすれば済むという声も出てきたので、今度は映画上映後に、実際に神式による祭典を行つた。教会・ホール等を借

りての儀式であるため、平和祈願祭とし、参加者の健康と世界の平和とを祈つたところ、好評を得た。大学からも二、三依頼が来るようになり、カリフォルニア大学バークレー校や州立大学チコ校等では、世界宗教学講義の一環として、祭典を行わせて頂いた。こういった縁から、大学の日本研究者の先生方と知り合う事ができた。そして

大学で専門に日本、又は宗教学を学んでいる学生たちを集めて、神道セミナーなるものを開いた。ところが、今度は逆に、言葉でついていけなくなり、出る幕がなくなつてしまつた。勉強不足を痛感した次第である。神道のことを知っている人は、本当に良く勉強しているし、理解しているという事も判つた。反面、知らない人は、全く知らない。少しだけ勉強した人は、大きな誤解を抱いている場合が多い。神道関係の書物はあまり英文化されていないし、英文化された日本紹介の書や、他宗教教団が発行している書等には反つて悪く書いてあつたりするので困つた。

そこで、一般向けに、簡単な機関紙を発行した。又、最近では日本企業からの地鎮祭の依頼が来るよ

うになり、あちこち飛び回らせてもらつている。等々、今日に至るまで、神道の紹介に務めてきたがなにする、大学卒業後一年余りで渡米、経験浅い神職であるため、勉強する事ばかりである。

今春、再度渡米するが、これからも祭典の奉仕を中心に活動を続けていきたい。又、今回は日系人を対象に神宮の式年遷宮への奉賛活動にも着手したいと思つている。支離滅裂な文章となつてしまつたが、海外での神道紹介、神道的心、日本人の考え方の紹介、簡単ではないが、絶対に必要な事と信じる。又、理解してもらえたと信じて頑張つている。この五年間でその手応えだけは、しっかりと感じる事はできた。

(表紙写真 提供神宮司庁)

## 会報 「榊 葉」

第17号

平成3年3月31日 発行  
山本行恭 行  
総務広報委 委員会  
津市鳥居町210-2  
三重県神社庁内

三重県神道青年会